

## トピックス…②

世界の配合飼料生産量が  
10億トンを上回る

世界トップ5に入る米国の飼料添加物メーカー・オルテック社は2017年1月27日、2017 Alltech Global Feed Survey (2017年オルテック世界飼料調査)を公表し、2016年における世界の配合飼料生産量が初めて10億トン(前年比3.7%増)を超えたことを明らかにした。同調査によると、わが国の生産量は昨年に引き続き2,300万トン台で推移し、世界第9位にランクインした。

## 1. 調査結果の概要

2017 Alltech Global Feed Surveyは、オルテック社の国際営業販売チームが収集した情報をもとに、現地飼料組合の協力を得て、配合飼料の生産量および価格を評価し、政策立案者や意志決定者、業界利害関係者に対する情報源とすることを目的としている。6回目となる今回の調査は、これまでで最も包括的で、世界の141ヵ国、30,000ヵ所を超える配合飼料工場を対象としている。

オルテック社の本調査実行最高責任者であるエイダン・コノリー(Aidan Connolly)氏は、調査結果について「総生産量が初めて10億トンを超えただけではなく、工場数が減少(前年比7%減)したにもかかわらず生産量が増加(同3.7%増)したことは、生産効率の向上と環境フットプリントの低減を意味する。2016年は明らかに飼料業界の効率向上および合併統合の年であった。これは、世界人口が増加し続けるなか、飼料業界による食料増産のための取組として好ましい傾向である。」と語っている。

調査結果によると、2016年の生産量上位2国は中国と米国で、両国で家畜用飼料全体の35%を生産しており、主に肉牛、豚および水産養殖用の飼料部門で増加が著しい。このほか、アフリカ、アジアおよび中東諸国の一部でも飼料生産量が増加しており、これら国々における飼料穀物の需要拡大が著しい。

また、配合飼料生産量の上位30ヵ国には、世界の配合飼料工場の82%が所在し、世界の配合飼料の86%を生産している。その他の111ヵ国が残りの14%を生産している。配合飼料生産量上位10ヵ国を挙げると、①中国、②米国、③ブラジル、④メキシコ、⑤スペイン、⑥インド、⑦ロシア、⑧ドイツ、⑨日本、⑩フランスであった。これらの国々には世界の配合飼料工場の56%が所在し、総生産量の60%を生産している。

このような状況のなか、乳牛用配合飼料の生産量は世界で安定して推移しているが、米国とインドの生産量はそれぞれ12%および14%増加し、この2大生産国の地位がより強固になった。また、オランダとアルゼンチンで増加する一方、トルコ(前年比150万トン減)とドイツ(同340万トン減)で減少した。近年は、ヨーロッパで減少し、北米で増加する傾向にある。なお、肉牛用配合飼料の生産量は、米国が第1位の座を維持しており、推定飼料生産量は前年比10%増であった。

## 2. 地域別の特徴

## (1) アジア地域

中国の配合飼料生産量(1億8,720万トン)は依然として世界第1位であり、アジアではベトナム、パキスタン、インド、日本でも生産量が増加した。とくにベトナムでは前年比21%増となり、初めて上位15ヵ国入りを果たした。具体的には、豚用とブロイラー用配合飼料の生産量が100万トン以上増加した。

なお、わが国の配合飼料価格が世界最高レベルであること、中国の配合飼料価格が生産量上位10ヵ国と比べてほぼ2倍であることから、アジアは引き続き家畜生産コストが世界的に最も高い地域の1つとなる見込みである。

## (2) 北米地域

北米の飼料生産量は比較的横ばいで推移している。しかし、乳牛用、肉牛用、七面鳥用、ペット用および馬用の飼料生産については、依然として他の地域を上回っている。

## (3) アフリカ地域

アフリカは5年連続で、配合飼料生産量の地域別増加率が最も高く、半数を超える国で増産となっている。とくに、ナイジェリア、アルジェリア、チュニジア、ケニアおよびザンビアの各国では30%を超える著しい伸びが認められた。国民1人あたりの配合飼料生産量は依然少ない状態が続いているものの、引き続き増加の兆しが見える。

## (4) ヨーロッパ地域

この数年で初めて、EU(欧州連合)の配合飼料生産量が増加した。スペインの生産量が前年に比べて8%増の3,190万トンを記録したことが大きく影響した。一方、主要国であるドイツ、フランス、トルコおよびオランダでは生産が減少している。

## (5) 南米地域

南米では引き続きブラジルの生産量が最大であったが、増加率ではメキシコが最も高い。依然として、ブラジルの生産量は南米全体の約50%を占めているが、メキシコの生産量は20%を上回った。

南米の配合飼料価格は概ね安定して推移しているが、ブラジルでは2016年に上昇した。ブラジルの配合飼料価格は、米国と比べて豚用が20%、採卵鶏用および種鶏用が40%程度高かった。